

「しかし、霊に導かれているなら、あなたがたは、律法のもとにはいません」

(ガラテヤの信徒への手紙 5・18)

#10



私たちは
平和な関係を
築くよう
呼ばれています

律法を生き、
聖霊に導かれる
とはどういうこと
でしょうか？

使徒パウロは「律法全体は『隣人を自分のように愛しなさい』という一句によって全うされる」と記しています。

(ガラテヤの信徒への手紙5・14)

私たちが神の愛である聖霊に導かれるなら、真の自由を得ることができるのです。
それは、イエスにならい、すべての人を愛すること、自分から先に愛すること、自分と同じように他の人を、敵だと感じる相手をも愛することです。

「私たちが動かすのは愛です。置かれた状況の中で、自分は何をなすべきか、何を選ぶべきかを悟らせてくれるのは愛です。

愛こそが、『これは善いこと、だからしよう。これは悪いこと、だからしない。』と教えてくれるのです。

愛こそが、相手によかれと行動するよう促すのです。私たちは、外からではなく、聖霊が心に注いだ『新しい生き方』に導かれます。

私たちの力、心、思い、能力のすべてが、「聖霊に従って歩む」ことができます。私たちのそうした力がすべて愛によって一つにされ、私たちや社会の上にある神のご計画のために差し出されるからです。私たちは自由になっているから、愛することができます」¹
キアラ・ルービック

神から来る愛は
家や学校で、
友だちと、
どんな場でも
責任をもって
行動するよう、
私たちが
押し動かす。



僕らの の 経験:

僕が今現在進行形の経験を分かち合います。僕は5人兄弟の2番目。クリスチャンとして、よく育てられ、日曜はみんなと一緒にミサに行っていた。

でも、多くの家庭で起こるように、僕の家も問題が起こるようになった。そして数年前、お父さんは家を出て行ってしまった。

お父さんが僕らを見捨ててから、もうお父さんの声を聞きたくなかった。

ある日、教室で先生が小さな紙を配った。それはいのちの言葉だった。お互いの愛について書かれていた。

家に帰ってから、もう一度その紙を読んだ。どうやってそこに書かれた言葉を生きて、平和をもたらす人になれるのか知りたかった。

その言葉を生きるのに一番難しいのは、お父さんとの間に違いなかった。

両親の別居は、やはり大きなショックだった。自分ひとりの力では、お父さんを許せないと思ったので、教会に生き、お父さんを愛するための助けをイエスに願った。家に戻って、お父さんに電話した。

全力でお父さんを裁かないようにした。お母さんと別れたことには一切ふれずに、ただひたすら、いい会話になるようにした。

電話を切ったその瞬間、心の中に大きな平和を感じた！



苦しみはまだ去らないけど、状況は変わらないから。両親は別れたまま。

でも分かった。自分の周りの誰かに小さな愛の行いをするたびに、平和な世界が小さく一歩前進するんだと。

ラファエル (ブラジル)